



研究テーマ

- 1 口腔における発癌・転移・浸潤関連因子に関する基礎研究・応用研究
- 2 腔外科疾患における新しい治療法・診断法の開発
- 3 腔機能・口腔内細菌と全身疾患との関連性の解明

研究概要

口腔外科では小児から高齢者まで、顎顔面および隣接組織に現れる先天疾患から腫瘍、嚢胞、炎症、外傷、顎関節症、口腔乾燥症、舌痛症などの幅広い病気の治療を行います。また、大学病院の特性から全身疾患を有する症例を数多く経験しています。

当教室では、口腔がんの病態解明および新しい診断方法の開発、内視鏡や顕微鏡を用いた新たな低侵襲手術法の確立、口腔機能や口腔内細菌と全身疾患との関連解明を目的として、以下のテーマを中心に研究に取り組んでいます。

1 口腔における発癌・転移・浸潤関連因子に関する基礎研究・応用研究

(1) 癌遺伝子および癌抑制遺伝子の口腔扁平上皮癌における研究

口腔癌の発癌については、検体を用いた様々なアレイ解析を利用し、口腔癌に関与する新規 oncogene, tumor suppressor gene について分子生物学、病態学、免疫学といった多様な見地からアプローチを行っています。

(2) 口腔癌における転移・浸潤関連因子に関する研究

口腔癌の浸潤先端において特異的に発現する遺伝子の免疫組織学的検討、あるいは動物モデルを用いた頸部リンパ節転移や肺などの遠隔転移の解析を行っています。

2 腔外科疾患における新しい治療法・診断法の開発

(3) 内視鏡・顕微鏡を用いた低侵襲手術方法の確立

術後の腫脹や出血の減少、入院期間・治療期間の短期化を目的として、顎顔面領域での内視鏡・顕微鏡を用いた低侵襲手術方法の確立および有用性の解明を目指しています。

(4) 口腔機能低下とロコモティブシンドロームとの関連性の解明

宮崎県における高齢者に関する口腔の形態・機能と全身運動器、および全身の健康との相互関連を解明し、歯科領域から見たロコモティブシンドローム(歯科ロコモティブシンドローム)の予防の重要性を明らかにすることを目指しています。

3 腔機能・口腔内細菌と全身疾患との関連性の解明

(5) 小児慢性特定疾患児の口腔疾患と口腔・腸内細菌叢・慢性疾患との関連の解明

小児の慢性疾患の治療では疾患管理のセルフケア行動とともに、全身感染症予防のための口腔清掃や口腔感染症の管理も重要となります。歯科管理による口腔機能の発達や口腔細菌叢の管理と全身の健康度や原疾患の管理状況との関連を検証しています。

(6) 周術期口腔機能管理を受ける患者の口腔内細菌に関する検討

周術期口腔機能管理患者に対して口腔内細菌状態の検討を行い、全身疾患との関係性や手術前後の口腔内の変化に対する口腔内細菌の関連性の解明を行っています。

ホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/oral/>

技術相談に応じられる関連分野

口腔癌、口腔機能、口腔内細菌、口腔と全身疾患との関連、低侵襲手術(内視鏡 顕微鏡等)

メッセージ

共同研究が可能なテーマ：口腔癌の基礎・応用研究、口腔機能・口腔内細菌の分析、口腔と全身疾患との関連性の解明、低侵襲手術(内視鏡 顕微鏡等)の技術開発

山下 善弘

やました よしひろ

医学部

医学科

感覚運動医学講座顎顔面

口腔外科学分野

教授

キーワード

口腔がん、口腔粘膜疾患、先天異常(口唇口蓋裂、顎変形症)、顎関節症、口腔機能、口腔細菌、ロコモティブシンドローム、低侵襲手術

特許情報・
共同研究・
応用分野など

特許情報

口腔開口維持装置(特許第6818194号)